

令和6年度 立川市立第十小学校

全国学力・学習状況調査(小学校) 分析と今後の対応

6年生

【国語科】

全国の平均以上△ 平均以下▼

分類	区分	問題数	平均正答率(%)			
			第十小学校	東京都	全国	
全体		14	63 ▼	70	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	4	62.3 ▼	67.9	64.4
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	90.6 △	88.8	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	60.4 ▼▼	75.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.5 ▼	63.9	59.8
		B 書くこと	2	67.0 ▼	69.9	68.4
		C 読むこと	3	59.1 ▼▼	71.9	70.7
評価の観点	知識・技能	6	66.7 ▼	72.6	69.8	
	思考・判断・表現	8	60.8 ▼	68.4	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	67.5 ▼	73.0	69.9	
	短答式	2	57.5 ▼	63.1	59.7	
	記述式	2	48.1 ▼▼	63.7	64.6	

【国語科】

<全体>

- ・平均正答率において、東京都・全国に比べ下回っている。  
(十小:63%、東京都:70%、全国:67.7%)

<項目別分析>

学習指導要領の内容

[知識及び技能]

- ・(2)「情報の扱いに関する事項」では、正答率が90.6%(東京都:88.8%、全国86.8%)と高かった。メモの書き方を説明したものとして適切なものを選択する問題で、情報と情報との関連付けの仕方、語句と語句との関係の表し方が理解していることがわかる。
- ・(1)「言葉の特徴や使いに関する事項」では、正答率が62.3%(東京都:67.9%、全国64.4%)となり、全国平均を下回った。問題別で特に、「きょうぎ」を「競技」と書き直す問題、「かがやいています」の主語を選択する問題の正答率がそれぞれ、41.5%(東京都:48.9%、43.4%)、52.8%(東京都65.2%、全国\*62.3%)と低かった。漢字の定着度、主語と述語の関係の理解が低いことがわかる。
- ▼(3)「我が国の言語文化に関する事項」では、正答率が60.4%(東京都:75.3%、全国:74.6%)と、全国平均を大きく下回った。読書の記録の空欄に入る内容として適切なものを選択する問題であったが、無回答が24.5%と多く、実態を正確に把握することは難しいと考える。

[思考力、判断力、表現力等]

- 全項目で全国平均を下回っているが、特に「C 読むこと」では、正答率が59.1%(東京都71.9%、全国70.7%)と低かった。登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えることに課題が見られる。

問題形式

- 選択式、短答式、記述式とそれぞれ全国平均を下回っているが、記述式での正答率が48.1%(東京都:63.7%、全国64.6%)と低かった。日常的に自分の考えを表現する場が設定されていても、その力が十分に身に付いていないことが考えられる。

<今後の対応>

- ・漢字の定着を図るため、朝学習や帯時間を活用していく。
- ・文章を読み取る学習において、キーワードを抜き出したり、要約したりする学習を丁寧に行う。
- ・主語と述語に気を付けたり、習った漢字を使ったりしながら短い例文を書く活動を意図的に行う。
- ・日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに慣れさせると共に、書いた文章を推敲する習慣を身に付けさせる。
- ・グループ学習や教え合いの活動など、学び合う場を意図的に設定したり、児童の興味関心をひく課題を設定したりして、主体的に学習できるようにする。

【算数科】

全国の平均以上△ 平均以下▼

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			第十小学校	東京都	全国
全体		16	62 ▼	68	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	66.4 △	70.6	66.0
	B 図形	4	67.0 △	70.8	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	52.2 △	59.3	51.7
	D データの活用	4	54.2 ▼	65.2	61.8
評価の観点	知識・技能	9	71.1 ▼	76.7	72.8
	思考・判断・表現	7	50.7 ▼	57.1	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	75.1 ▼	79.2	75.3
	短答式	7	61.2 ▼	67.6	62.0
	記述式	4	47.6 ▼	55.1	51.0

【算数科】

<全体>

- 平均正答率において、東京都・全国に比べ下回っている。  
(十小:62%、東京都:68%、全国:63.4%)

<項目別分析>

学習指導要領の内容

- 「A 数と計算」は66.4%(東京都:70.6%、全国:66.0%)、「B 図形」は67.0%(東京都:70.8%、全国:66.3%)、「C 変化と関係」は52.2%(東京都:59.3%、全国:51.7%)と、全国の平均正答率を上回った。授業だけでなく、朝学習で東京ベーシックドリルに取り組んだ成果として、基礎・基本が定着しているのだと考えられる。

▼「D データの活用」は、正答率が54.2%(東京都:65.2%、全国:61.8%)となり、東京都、全国の正答率を下回った。出題の趣旨、問題形式、正答率は以下の4問になる。

- ①円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうか **短答式**(正答率83.0%)
  - ②簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうか **短答式**(正答率58.5%)
  - ③折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうか **記述式**(正答率30.2%、無回答率20.8%)
  - ④示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうか **短答式**(正答率45.3%)
- ③の問題が正答率、無回答率ともに低かった。④の問題も正答率が50%以下となった。必要な情報を読み取ること、言葉と数で説明すること、必要な数値を式に表すことに課題があることが考えられる。

問題形式

●選択式、短答式、記述式とそれぞれ全国平均を下回っているが、大きな差はなかった。記述式での正答率が47.6%(東京都:55.1%、全国51.0%)と50%よりも低かった。記述式で答える問題は上記の③の他に、以下の3問がある。

- ③折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について、3月の回数と4月の回数の違いを書く(正答率30.2%、無回答率20.8%)
  - ⑤ $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 $350 \times 16$ の積の求め方と答えを書く(正答率66.0%)
  - ⑥五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に注目して書く(正答率73.6%)
  - ⑦家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く(正答率20.8%)
- 記述式の中でも特に⑦に正答率が低かった。「速さ」についての学習への苦手意識が強く、「速さ・時間・道のり」の関係を十分に理解できていないことが考えられる。

<今後の対応>

- 低学年から計算力や図形の特徴、グラフを考察する力を付け、算数科における基礎・基本の定着を図る。
- 条件に合う表や図を用いて解決の手順を論理的に考えられるようにする指導。
- 放課後算数教室などを利用した個別指導の充実を図る。
- 東京ベーシック・ドリルやタブレットPCのドリルなどを活用し、個に応じた復習問題を解かせることにより、学習の定着を図る。
- グループ学習や教え合いの活動など、学び合う場を意図的に設定したり、児童の興味・関心をひく課題を設定したりして、主体的に学習できるようにする。